

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（12月定例会）
開催日時	令和4年12月23日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎3階会議室
出席者	委員：川原議長、小松副議長、伊尻委員、勝野委員、黒羽委員、河野委員、 坂内委員、菅野委員、攝賀委員、高橋委員、長谷川委員、宮本委員、松本委員 事務局：吉田社会教育課長、神保社会教育係長、齋藤社会教育主事、野田主事
議題	（1）提言について
配付資料	
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
会議内容	
●議題について 議題（1） 提言について ○事務局：前回の11月定例会では第3章（1）人材育成に向けたプロセス、（2）人材の活用についてに議論をいただいた。 12月定例会では第3章（3）多世代の人材が活躍するフィールド（4）社会教育関連資格の推進について議論をいただきたい。 今回の検討内容を文章化した原案の検討は来年3月を予定している。 ○議長：今回は第3章の（3）多世代の人材が活躍するフィールド（4）社会教育関連資格の推進についてご検討いただきたい。前回と同様にトーキングスティックという手法を用いて議論を進めたい。まず、（3）多世代の人材が活躍するフィールドについて、ご意見願いたい。 ○委員：社会教育に関わっている方々は、主にシニア世代、そして保護者の方々の印象がある。以前は、母親が多いように思えたが、おやじの会の活躍など、父親の活躍も増えてきた印象がある。若い世代をどのように巻き込むか、どのようなきっかけが考えられるかの具体例を挙げる必要がある。子供たちや若い世代を巻き込むには、学校教育と社会教育をどのように繋げていくかがポイントになるのではないかと。また、多世代だけではなく、多様な方々の参加も可能にするという視点も入れるとよい。 ○委員：おやじの会は現役世代が多く、年配の方々の繋がりをどのように考えていくかの検討が必要である。そして、おやじの会は様々なスキルをお持ちの方が多いので、そこから広がりを作ることが大切だと考える。西東京市内の各おやじの会の代表者が意見交換をする連絡会が最近開催された。また、おやじの会に入りづらいというような声も聞くので、参加のハードルが低い集まりが大切である。 ○委員：地域活動参加のきっかけとなるのはイベントであると考えている。育成会が主催するどんど焼きには多くの地域の方々のご協力をいただき、小さな子供から年配の方まで多世代が参加して	

いる。さらに、地域住民の方々が見学に来られて、そこでまた交流ができ、次の機会に何か手伝いたいという声も聞く。

「②多世代の交流の場を設ける」については、公民館まつりに参加したときに、中学生ボランティアやPTAの方も運営の手伝いに来ていた。一般の地域の方もそこに来ることで様々な活動をしている方ともお話ができるので、この公民館まつりは地域を繋げるものであると改めて感じた。

「③多世代が地域に愛着が持てるような取り組み」は、地域で長く続いている行事が、この先も長く続いてほしいと考える。

○委員：小中学生のアイデアや想像力を取り込んでいきたい。子供たちが、自発的に何かできる、あるいは、地域の課題に目を向けられるような機会を設けることが大事である。例えば、インターシップを活用できるような形にすると、将来、参加者が地域に戻るなり、他の地域でも学んだことを必ず活かしてもらい、それが、次世代を育てていく一つの大チャンスではないだろうか。その場合、必ずコーディネーターが必要になる。コーディネーターが機会づくりをし、繋げる役割を担う。

○委員：地域で開催されているイベントは、各地域で活動している人たちが自主的に運営しているところもあるので、そのような活動はとても大事で、大切にしていきたい。地域のイベントの告知の方法に課題を感じており、小学生には伝わるが地域の方々への周知が難しい。ゆめこらぼでは催し物をまとめ、情報発信しているが、そのようなものが西東京市全体であるといいと考える。

また、児童館は18歳まで利用できるが、18歳を超えてしまうと急に施設利用が難しくなる。大学生などの18歳を超えた若者が学校の体育館等をより簡単に利用できると良いと考える。そうすることで、小・中学校と大学生のつながりも生まれるのではないかと。

○委員：中高校生、大学生を取り入れることは、宣伝ときっかけが大事だと考える。西東京市の公式LINEを活用してうまくPRできれば良いと思う。声かけをする際、いきなり「ボランティアをしましょう」と話しても参加しづらいと思うので、市民まつりのような若者世代にとって関心のあるイベントからボランティアに繋がれば良いと思う。市民まつりは世代間交流だけでなく、西東京市で活動されている方々の関わり合いを見ることができいい機会である。ヒアリング等を通して多世代からの意見を聞くことも大切であると感じる。

○委員：「①多世代の人材が活躍するフィールド」については、それぞれの参加のハードルを低くすることが、より多世代の参加を促せると考える。私自身は子供を産んで親になったことが、地域の関わりのきっかけになったと感じている。

次に「②交流の場を設ける」については地域全体が関わる避難所訓練が思い浮かぶ。

多くの地域の方や中学生ボランティアが、スタッフとして協力していた。参加者にはつきたての餅を配布し、みんなで「もし震災が起こったらここが避難所になるからみんなで協力しよう」と共有ができ、それがまさに多世代の交流に繋がっていると感じた。「③地域に愛着が持てるような取り組み」について、一番はお祭りだと考える。地域ごとに同じ色のハッピを着て楽しんだ記憶がある。それによって地域の子供たちは帰属意識が増していたのではないかと。

○委員：多世代の人材が活躍するためには、多世代の声に耳を傾けないといけないと考える。中学生の意見を反映させようとのことで市役所の各課から多数のヒアリング依頼があるが、子供たちの意見がうまく反映されていないように感じる。意見を聞く以上は、子供たちの意見が現実的でない場合でも、その事実を子供に伝え、子供たちが他の意見を考えるというやりとりを繰り返し、最終的には実現させるべきだと思う。例えば予算的に無理だと言えば、中学生は別の方法を考えられると思う。そうすることで、子供たちも自分の意見が反映され

たという達成感も生まれるのではないか。

- 委員：土日・祝日であれば、現役世代も参加することができると思う。少年野球チームなどのスポーツ団体にコーチとして所属しながら、その他のお父さん方とともに草取りなど様々な地域活動に協力してくれている。子供が卒業してもなお、繋がりがある。
- 議長：ご意見ありがとうございます。続いて、社会教育関連資格の推進についてご意見願いたい。
- 委員：社会教育主事や社会教育士について、大学生の関心が高まってきた印象がある。地域活動に興味を持ってもらいつつ、実はもう既に社会教育に関わってきたということをまず認識してもらい、資格取得に関心が高まるよう推進していきたい。
- 委員：社会教育関連資格の講習を受講する方たちをどのようにして広げていくかが重要である。例えば、社会教育委員が社会教育士の資格を取得し、地域に広げていくなどすると、委嘱期間が終えた場合も、社会教育士として地域のフィールドで活躍でき、これからの活性化に繋がられるのではないか。
- また、市として、全庁的に社会教育主事、あるいは社会教育士の資格取得を展開してほしい。庁内のそれぞれの部署が取り組んでいる業務について社会教育に関わる部分を扱っている部署も少なくない。人事異動によって部署が変わった場合も、知識や経験、社会教育の考え方を活かしていくことができる。同時に市の職員採用にあたっては、社会教育士の資格を持っていることを採用の条件として加味していくことも提言の中に盛り込んでいきたい。
- 委員：コミュニティスクールでの委員選出や、地域学校協働活動のコーディネーター選出については地域に顔が広い方が好ましいが、ただ広ければいいという訳でもなく、特殊な考え方をお持ちだと相応しくない。そういう意味では、社会教育主事や社会教育士の資格を取得されている方が地域にいと、一定基準の知識を持ったうえで活動に参加していることが分かるので、選出する側としてもメリットがある。
- 一方で、社会教育主事と社会教育士の知名度に関しては、低い状況があるかと思うので、資格取得を推奨していくためのPR方法や、仕事をしながらも資格取得がしやすいような制度設計が必要であると考えます。
- 委員：社会教育士の資格を取得された方にはどのようなメリットがあるのかが気になる。ほとんどの場合がボランティアになると思うが、そのボランティアの魅力をどのように伝えていくのかが大切なのではないか。
- 委員：令和2年度に社会教育士の制度が始まって間もないので、制度として課題も現状としてあるかと思う。地域活性化や人材発掘を推進するためにも社会教育主事と同様の内容を学んだ方々に、多方面で活躍してもらえることは良いことだと考える。
- 委員：提言するにあたっては、西東京市として、社会教育士を取得したい方に対してどのような支援ができるのか、講習会場を設けられるのか、受講にあたりいくらぐらい補助しますとか、資格取得の奨励をするにあたっての具体策があれば良いと考える。
- 委員：社会教育士のパンフレットを見たときに、地域課題を見つけて、参加者とその答えを探すべく、一緒に取り組み、そして話し合いの機会をつくり、他のサークルや関係団体へ繋げるなどまさしく、公民館の職員が行っていたことだと思った。社会教育士の称号があるか否かに関わらず、社会教育に関わる方には、社会教育士の心構えについて学んでいただくことも大切なことだと思う。実際に社会教育士の称号を持つことによって、誇りや責任感も生じるの

ではないか。

- 委員：地域で活躍している社会教育士と自治体職員の社会教育主事がうまく連携を取りあうことが、大事である。
- 委員：地域で活躍されている社会教育士のロールモデルが広まれば、資格についての関心が高まるのではないか。
- 委員：教育委員会に社会教育主事がいるが、市長部局の研修制度の中に取り入れていただき、市の職員が市民活動団体や地域の方々が繋がって地域課題を発掘し、市民と一緒に協働で解決していくモデルを作ると、次は市の職員だけに頼るのではなく、地域の方々が社会教育士を取得し、コーディネートしていくと持続可能な地域になると思う。まず市の職員から取得するような制度設計ができればよいと考える。

次回会議

令和5年1月27日（金）午後2時

場所 田無第二庁舎 3階会議室